



## 院長

村上 優(むらかみ まさる)

1949年生まれ

74年九州大学医学部卒

86年国立肥前療養所精神科医長、2002年同療養所臨床研究部長、

同年King's College London Institute of Psychiatry(司法精神医学研究所)長期研修。

2005年花巻病院臨床研究部長(兼任)、2006年琉球病院院長を経て、2014年榊原病院院長に就任。

日本司法精神医学会理事、日本アルコール関連問題学会監事。

NGOベシャワール会の副会長として活躍。



## 診療科

- ・ 一般精神科
- ・ アルコール・薬物依存症
- ・ 専門外来
- ・ こころのリスク外来

## 病床数 120床

- ・ 精神科病棟 102床
- ・ 医療観察法 18床
- ・ 認知症ユニット
- ・ アルコール・薬物依存症ユニット

## 病院理念

この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

### 新春お慶び申し上げます

院長 村上 優

あけましておめでとうございます。

榊原病院に異動して半年になります。四季の感覚が乏しい沖縄より8年ぶりにやまとの季節の中で過ごして新鮮さを感じています。鮮やかな紅葉が過ぎて寒さを感じると沖縄の温暖な冬が懐かしくなります。

榊原病院も医療面ではご協力を得て変化を遂げつつあります。一步一步ですが医師、看護師、心理療法士、作業療法士、精神保健福祉士の多職種チームも質、量ともに整備がされてきました。特に今春には若手で男性と女性の医師2名が着任してくれる予定です。

これまでは統合失調症の療養を医療活動の中心に置いていましたが、治療抵抗性精神疾患への積極的な医療により社会復帰促進へ軸足を移しました。クロザピンなどの薬物療法に加えて多職種チーム医療により成果を挙げたいと思います。

アルコール・薬物依存などの嗜癖医療、認知症医療、さらには「思春期・青年期こころのリスク外来」により初期段階での医療にも取り組む準備をしています。アルコール・薬物依存医療はプログラム「回復の道」を作り、早期介入のHAPPYプログラムなどを導入しています。地域で気軽に受診でき、専門的な医療を提供できる精神科医療施設となることを目標にしています。

また在宅支援にも力を注ぎ、デイケアや訪問看護を充実させ障害があっても安心して生活ができるように、私たちに何ができるのかを考えます。三重県や津市、久居地区のゆったりとした文化圏に沿った支援があるべきと思います。

榊原病院に来て癒されるのは自然の存在です。夜の暗さと静けさの中に本来の人の息遣いが感じられます。病む人の息遣いに配慮しつつ医療ができれば素晴らしいと思います。現代は明るすぎる光の中で、むしろ感じる事ができない、見ることができない、触れあうことができない事態になってはいないでしょうか。榊原病院は「やまと」を感じる風土の中で、自然体でかつ先進的な医療が実現できれば、ここで医療を携わったことを誇りに思えるでしょう。そんな1年になるようにと願っています。



電車・バス / 近鉄久居駅下車、三交バス(榊原温泉駅行)にて約30分。榊原口バス停下車徒歩約10分。

自動車 / 久居インター(伊勢自動車道)より西へ約20分

マイクロバス / 久居駅より直通バス(約25分)

## トピックス

### 行事・出来ごと

- 平成27年1月より「禁煙外来」をはじめました。  
タバコを辞めたいと思ってもなかなかやめられないあなた、「タバコのない生活」始めてみませんか? お気軽に当外来にご相談ください。
- 平成27年1月27日より北2病棟が南1病棟に移転します。
- 平成26年12月15日にデイ・ケアの場所が南病棟2階へ移転しました。

### 教育・研修

- 第2回榊原セミナー「患者さんの声を聴くこと 一より良い精神医学徒を目指して一」(講師:吉岡真吾 東尾張病院司法精神医学部長) 平成27年1月30日(金) 17時30分~
- 「アルコール依存症者の看護について」(講師:古川房予 琉球病院看護師長) 平成26年12月19日(金) 16時~
- 統合失調症家族教室(10/6、10/20、11/10、12/1、12/22、1/19、2/2、2/16、全8回13:00~15:30)

## 地域医療連携室だより



### 〈統合失調症 家族教室 開催中〉

10月から毎月1～2回のペースで家族教室を開催しています。これまで、テーマ「いったいどうしたらよいのでしょうか」「病気の症状」「病気の経過」「精神科の薬について」に沿って、講義とグループワークを行いました。毎回、教室では積極的な発言や質問が多くあり、ご家族皆様が熱心に参加していただいています。

患者様の回復を信じて一生懸命に支援をしているご家族だからこそ「病気の事を知り、どんどん気持ちが落ち込む」との本音の声や、「本人はもっと辛いと思う。自分たちが落ち込んではいけな」と一番身近な支援者であるご家族の前向きで力強い声が聞かれます。

今回の家族会は残り3回となりましたが、引き続き、患者様ご家族様が上手に病気と付き合っ生活をしていけるよう、外来・病棟とも協力し、多職種のスタッフでサポートしていきたくと思っています。



なお、現在、家族教室への中途参加は行っていただけませんが、今後もご家族様への支援は継続してまいりますので、家族教室に興味のある方は、外来、地域医療連携室にお問い合わせください。

空床状況 **精神科病棟**  
12月26日現在 **10床**

## 訪問看護

当院の訪問看護は、退院後地域で安定した生活が送れることを目標といたしております。退院後の課題といたしましては、大切な薬を中断してしまうこと・生活リズムを守れず昼夜が逆転してしまうことやお金の管理が上手くできず使いすぎて生活に困る等の病状がみられます。

これらの症状の悪化に伴い再入院する方が多くなっております。患者様と家族の困ったことについて、地域の方々の支援を受けながら一緒に考え、安定した生活ができることを目標としております。

## 治療抵抗性精神疾患への医療

### 〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、12月までに全症例は3例となり、治療経過も順調です。平成27年1月も順次投与を開始する予定です。

また、今後クロザピン専門外来の開設についても準備を進めていく予定としています。



## 認知症医療・アルコール・薬物依存医療・こころのリスク外来

### 〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に、認知機能が低下した方、さらに身体疾患に伴発した認知機能の障害のある方は、若年の方にも見られます。したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方にも見られます。身体的な問題については、三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状(BPSD)に対応しています。

一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

### 〈アルコール・薬物依存医療〉

「今日は飲まないぞ!」と決心してもつい飲んでしまう。一杯でやめようと考えているのに気が付いたら量が増えている。飲酒のために健康を害しているのはわかっているのにやめることができない。

このように飲酒に対するコントロールを失ってしまう病気です。進行すると、アルコールが切れた際に手のふるえや発汗、不眠などの離脱症状が出ます。意志や人格の問題ではなく、飲酒が過ぎると誰でも発症する可能性があります。

お一人で、ご家族だけで悩み解決しようとするのではなく、まず専門スタッフへお気軽にご相談下さい。

ご自分だけで抱えずに相談することが、病気を回復する第1歩です。

### 〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われております。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



## デイ・ケア案内

社会に出るのに自信がない、悩みを話し合える友人が欲しい、人とうまくつきあえるようになりたい、・・・と思っている方々が対象です。集団活動を通じて、就労などの社会復帰や、よりよい社会参加を目指していくことを目的とするものです。初めて参加を希望される方は事前にご連絡下さい。

時 間：13:00～16:00 月・水の週2日開催。

主な内容：症状自己管理教室、栄養教室、アロマセラピー など



榊原は自然がいっぱい!  
お話ししながら歩きますか?

大人気のクッキング教室で、  
カレーライスを作りました。



## 近況だより

### 北1病棟クリスマス会

平成26年12月16日(火)、北1病棟では、ささやかなクリスマス会を開催しました。

各受持ち看護師より患者様に手作りの工夫を凝らした?クリスマスカードをプレゼントしました。

その後、クリスマスソング、恒例のカラオケを熱唱しました。

最後は、クリスマスケーキを楽しく味わいながらのティータイムで楽しいひと時をみんなで過ごすことができました。

